

北海道における医師の現状と対策等について（発言要旨）

北海道乙部町長 寺 島 光一郎

1. 北海道の状況

- ◎ 面積：83,400 Km² （四国・九州・沖縄の12県の1.3倍）
- ◎ 人口：550万人
- ◎ 医育：3大学 （ ” 15大学の20%）
- ◎ 町村数：144 （ ” 213の70%）

※ 道内は広大であり、足寄町1町で香川県の3/4の広さがあり、札幌から道北までは5時間、道東までは7時間以上を要する。

2. 北海道の2次医療圏別医師数（別表）

- ① 札幌圏（北大医・札幌医）に全道医師の半数及び上川中部圏（旭川医）に医師が集中しており、地域格差が著しい。

この2圏域に医師が集中しているのは医育大学があることと、高度専門医療機関が多いためである。

- ② 2次医療圏21の内、①の札幌圏、上川中部圏以外の19医療圏で医師数が全国平均を下回っている。
- ③ 医育大学から遠く、交通アクセスが不便な地域（南檜山や根室等）ほど医師が少ない。
- ④ 町村立病院数59のうち、現在医師不足は43（3/4）で医育大学が無く、交通アクセスが不便な地域の病院では、ほぼ全部の病院で医師不足の状態が続いている。

3. 北海道乙部町（道南の南檜山圏・別表）^{おとべちょう}の病院の現状

医師 2 人体制の病院で約 2 年毎に医師確保に本州、九州まで回るのが首長の大きな仕事となっている。

他の首長も同じ状況にある。

南檜山医療圏のセンター病院は道立江差病院で、札幌医科大学から医師の派遣を受けているがここでも医師不足は深刻な状況である。

このため、南檜山圏ではお産もできない状況が続いている。

< 医師不足の主な要因 >

① 道都札幌から車で 4 時間 30 分、列車と迎いの車の乗継でも 4 時間と、交通過疎地である。

このため、家族が札幌に別居の場合、金帰月来が出来ず、特に冬期間の帰宅は無理がある。

② 子供の教育を考えた場合、中学生位からの子供がいる 40 歳半ばから 50 歳半ばまでの常勤医師の多くが単身となり、この年齢層の長期勤務の医師の確保は①と合わせて難しい状況である。

③ 医師 2 人体制のため、隔日の夜間当直となり、日中の診療と合わせて極めてハードな勤務体制である。

④ 土曜日、日曜日の宿日直は、札幌医科大学病院が応援医師を派遣してくれているが、往復 10 時間を要し、医師だけでなく医局内のローテーションにも大きな負担となっている。

4. 医師対策等

① 既設医育大学での実質的増員

北海道町村会は、地方の医師不足が一層深刻になると医育大学の定数削減に強く反対してきたが、定数削減が今日の深刻な医師不足の一因でもあり、以前以上の大幅な増員が必要である。

② 医育大学の 신설（特に医師不足が著しい地域に）

面積が広大で交通アクセスが不便な地域（北海道等）においては、医師不足が著しい地域に医育大学を新設するのが、最も効果的である。

例えば、道南や道東地域に医育大学を新設すれば、既設医育大学と合わせて4地域の医育大学で全道（離島以外）を3時間前後でカバーすることができる。

医育大学が過去に設置された上川中部（旭川）では、大学関係者だけでなく開業医も含めて多くの医師が定着（別表）している。

広い北海道においては、4地域（道央・道北・道南・道東）每での医師の養成確保が有効と考える。

③ 女性医師の増加の中で、地方勤務が可能となるよう弾力的な勤務体系と紹介システムの確立が必要である。

④ 地域の実情に即した規制緩和等が必要である。

〈別表〉 2次医療圏別医師数（平成20年末）

（単位：人）

区分	全国	北海道				
		全道	市部	町村部	最高圏域	最低圏域
医師数	286,999	12,447	11,433 (91.9%)	1,014 (8.1%)	札幌圏 6,371	南檜山圏 34
人口10万対	224.5	224.9	257.3	94.4	上川中部圏 317.5	根室圏 91.2

		人口10万対 医師数
1	上川中部	317.5
2	札幌	275.0
3	南渡島	222.6
4	中空知	206.4
5	西胆振	201.5
6	北空知	195.1
7	後志	191.2
8	南空知	169.6
9	十勝	167.7
10	上川北部	165.1
11	東胆振	162.9
12	北網	159.8
13	釧路	158.9
14	富良野	138.5
15	遠紋	129.2
16	留萌	128.7
17	南檜山	122.3
18	北渡島檜山	114.6
19	日高	112.1
20	宗谷	96.0
21	根室	91.2
	全道	224.9

